



調布市は、令和7年4月1日に市制施行70周年を迎えました

市報

ちようふ



令和7年(2025年)
No.1794

7/5

CONTENTS(主な内容)

- 東京2025デフリンピックが調布にやってくる!.....4
- 定額減税補給付金.....5
- 子ども・若者向けチャット相談開始.....6
- 子ども向け夏休みのイベント.....10・11
- 平和祈念事業.....15

筋肉部が突入!夏に向けて室内で涼しくトレーニング 総合体育館で体を鍛えませんか?

総合体育館トレーニング室



市役所筋肉部

しっかり働いた後、体力向上と美しい体作りのために筋トレに励む職員がいます。おすすめのスポットを体を張って取材し、市報や市公式SNSで発信しています。

総合体育館の魅力は2・3面へ続く →

手をつなぐ樹 466



あの時代だからこそ

いまだ「ミスターロス」から脱しきれない。「うーん、どうでしょう」「や

やもすると」「いわゆる一つの」など、甲高い声で延々と読点が

続き、なかなか句点に辿り着かないどこか微笑ましい「長嶋語」。

ただ、没後に生前の姿を懐かしく拝見するとき、長嶋さんの語り口が誰に対しても極めて丁寧だったことに、今更ながらに感

心させられる。笑顔を絶やさなべてに安らぎを与えておられた。

私は長嶋さんのプロデビュア時を覚えている。小学校に入る前年だったが、あのフルスイングと華麗な守備、加えて俊足。

ファーストを川上哲治さんが守り監督は水原茂さんだった。

長嶋さんが名選手だったことは言うまでもないが、彼が放った光の眩しさが他を圧倒するほどの輝きを放つのは、彼のプレーヤーとしての黄金期がちょうど

日本の経済発展期に重なったことにも起因する。彼がプロ入りした戦後わずか10年余の昭和33

年当時、国全体はまだ貧窮に喘いでいた。そこから高度経済成長に沸き立ち、昇り龍のごとく

怒涛の快進撃を続けたわが国の明るさの象徴が長嶋さんだった

と言えよう。長嶋さんの温かな人柄が私たちを包み込み、洗練

としたプレーが国民の士気を鼓舞した。今後、あれほどの存在感を日本全体に与えるヒーロー

が果して出現するだろうか。私

私も多くの方と同様に心からのお礼を申し上げたい。「長い間、本当にご苦労様でした。有

難うございました」。

調布市報
長友貴樹



◀配布中止
連絡フォーム

市報ちようふは、
市報でもご覧いただけます

